

## S01

親子にみられた歯の形成不全について

○ 津田 裕子

津田歯科医院

緒言) 歯の色調の違いや顕著な咬耗、および細い歯根や歯髄腔の狭窄が認められるエックス線写真所見より、象牙質形成不全が疑われる親子の症例を経験したので、報告する。症例 1) う蝕予防を主訴に来院した初診時 2 歳 1 か月の男児。初診時 (平成 20 年) は、第一乳臼歯までの計 16 歯萌出。色調の異常は認められず、わずかなエナメル質の剥離が認められるのみであった。この剥離には、充填処置を行い、フッ化物含有歯磨材の使用を指導し、フッ化物塗布を行った。約 2 か月間隔の定診にて、エナメル質剥離が認められた部位の充填処置を行う。速やかに進行する咬耗に加えて、接着性歯冠修復物の歯質への接着が弱く、脱落が頻発したため、乳臼歯には乳歯冠を装着した。並行して、患児は夜間ブラキシズムもあるため、歯の負担過重を緩和しエナメル質の剥離、象牙質の摩耗、歯根の破折等を予防する目的で夜間のスプリントの装着を行った。

症例 2) 開口障害および咬合の不安定を主訴に来院した初診時 34 歳、症例 1 の母親。初診時 (平成 20 年) は、多数歯欠損に加え、埋伏歯、残根、歯根破折歯、エナメル質剥離歯等があり、残根上義歯が装着された状態であった。咬合痛の原因となる歯の抜歯、根尖性歯周炎の治療後の修復処置やブリッジ、インプラントによる欠損補綴を行い、咬合高径の安定を図り、現在治療中である。

考察) 症例 1 において、スプリントを装着した後は、咬耗の進行が抑制されている。同様な形成不全がみられ、咬合する歯が少ない永久歯交換期の症例 1 の兄 (現在 8 歳) にもスプリント使用を検討している。欠損補綴処置を行った母親の予後を追いながら、患児の管理を継続していく予定である。

## S02

患者の診療予約に関するアンケート調査  
川口 由佳 (イースト歯科クリニック)

【目的】当院は乳幼児から高齢者まで全ての年齢層に対応している歯科医院であるが、小児患者の予約希望は一定時間に集中する傾向が強いため小児を含めた医院全体において予約の取りにくい状況が生じている。当院での診療予約体制の改善を図るために小児患者の保護者を対象に診療予約の希望に関するアンケート調査を実施したので報告する。

【対象および方法】平成 23 年 2 月 1 日~5 月 31 日の間に来院した 1~12 歳までの再診患者の保護者のうち調査協力の得られた 145 名を対象として 1. 予約希望曜日・時間 (複数回答可) 2. 予約希望曜日・時間以外が通院困難な理由 (複数回答可) についてアンケート調査した。

【結果】1. 患者の内訳は未就園児 21 名、保育園児 16 名、幼稚園児 39 名、小学 1.2 年生 32 名、小学 3.4 年生 24 名、小学 5.6 年生 13 名であった。2. 全体の 70% が土曜日の予約を希望していた。3. 平日の予約希望のうち 71% が午後 3 時以降の希望であった。平日午後は月、火、水曜日の希望が多かった。4. 未就園児は平日午前に希望が多く、幼稚園児と小学 1.2 年生は平日午後と土曜日午前、保育園児と小学 3.4 年生は土曜日、小学 5.6 年生は平日午後と土曜日午後に希望が多かった。5. 希望日以外が通院困難な理由としては学校等を遅刻早退欠席させたくないが 43%、趣味習い事のためが 37%、保護者の仕事の都合が 30%、兄弟姉妹の都合が 25% であった。

【考察】小児患者の予約希望時間は学業や習い事、保護者の仕事や兄弟姉妹の都合に影響を受けていた。予約の際には医院側からも比較的混雑の少ない時間帯を提案することにより小児患者の集中を緩和できるような予約体制を構築することで小児患者と保護者に対して十分な説明や情報提供が可能となる環境を整備することが必要と思われた。